

先に見ないでね

むかしばなしから

「えびな」を知る

「笑う閻魔様」つづき

古くなってしまつて、閻魔様の木像も昔のおもかげは見られませんが(※)、そのお顔は、やましい心を持った人が見ると怒っているように見えると笑っているように見えます。今でも見ようによって、は、目元、口元が何となく

笑っているように見えるのは不思議なことです。

(こどもえびなむかしばなし第2集より)

(※現在は修理されています)

こたえは②です。

②やましい心を持った人には怒っているように見える

「家伝の妙薬」つづき

「私は近くの竹やぶに住む狐です。このたびはご迷惑をおかけしたのに、親切に手当てまでして頂き、ありがとうございます。おかげさまでけがも治りましたので、お礼に食あたりの薬を持って参りました」と言つて、シイタケのようなキノコを取り出し、採り方や使い方を説明して、「ほかの人にはこのことを決して言わないように」と、口止めをすると立ち去りました。

この薬は、上郷のある家に「家伝の毒消し薬」として、明治の初めまで伝えられていた、ということでした。(こどもえびなむかしばなし第4集より)

こたえは③です。

③手当てのお礼と、薬を持ってきた

販売中
海老名の歴史を
知る本

昭和53年〜平成14年の広報えびなに掲載した伝説・実話など約450話を9冊に再編集した「海老名むかしばなし」第2集〜9集を各300円で販売しています。



昭和31年〜平成12年の広報えびなをまとめた「広報えびな縮刷版」第2集〜5集を各500円、市内の坂にまつわる民話を1冊にまとめた「海老名の坂」を300円で販売中です。

販売場所 えびなやハウス
(中央1-2-2ビナフロント2階)

日・日・日にち 期・期間 時・時間 場・場所 対・対象 定・定員 内・内容 講・講師 費・費用 持・持ち物 他・その他 任・任期
条・条件 主・主催 E・Eメール H・ホームページ 問・問い合わせ 申・申し込み 予・予約制 祝・祝日 祝・祝日を除く 休・休み
高・高齢者対象の教室など えびな健康マイレージ対象 市外局番…省略しているものはすべて「046」です
市〇〇〇課への郵送…「〇〇〇課へ」とあるものは「〒243-0492勝瀬175-1海老名市〇〇〇課行」と記入してください
市役所開庁時間…省略している場合は原則「月〜金8時30分〜17時15分」

「広報えびな」の
共通マークと
ルール



市制施行50周年記念事業

新型コロナウイルス感染防止のため、本誌掲載のイベント・講座などは、変更・中止する場合があります。



海老名郷土かるた

ことしは「と」「ら」「どし

歌の由来をたどつて海老名の魅力を再発見。市内に点在する史跡や文化財などを詠んだ「海老名郷土かるた」から、「と」「ら」の札を紹介します。

土器・石器・瓦や板碑 いんげん 温故館



爛漫の桜堤に 渡船跡



【海老名市温故館】

相模国分寺跡が国指定史跡となった大正10(1921)年、海老名小学校校庭に、相模国分寺跡の出土品を保管するために建てた遺物陳列館が温故館の始まりです。現在の温故館は大正7(1918)年に建てられた海老名村役場の庁舎で、県内に現存する最古の庁舎建築です。玄関横にかるたの歌がかかれた擬木柱があります。



【相模川と渡船場跡】

相模川には洪水や戦略上の理由から常橋はなく、公私90力所ほどの渡しから木船による往来をしていました。定員50人ほどの歩行船と馬専用の大きめの船が運用され、市内には「厚木」「岡田」「戸田」の公の渡しがありました。安政5(1858)年の資料などから当時の渡船賃は1人十二文だったことが分かります。武士は無料でした。現在、擬木柱はありません。

◇**戸田の渡し**◇ 当時の門沢橋村と戸田村を結ぶ。柏尾通大山道の道筋にあり、渡しの風景は江戸時代の浮世絵に描かれた。歩行船1艘、馬船1艘。



大山参りの人々を見送った渡し近くの不動明王

◇**岡田の渡し**◇

当時の社家村と岡田村を結ぶ。徳川家康が通るときに舟橋を架けたことが渡しの始まりとされる。歩行船1艘、馬船1艘。

◇**厚木の渡し**◇

当時の河原口村と厚木村を結ぶ。青山通大山道の道筋にあり、江戸時代に流行した大山参りの主なルートとして利用された渡しの一つ。歩行船4艘、馬船1艘。